

保護者各位

学校法人明星学園 浦和学院高等学校  
校長 小沢 友紀雄  
国際局長 林 洋平  
国際教養・ライフスキル教育推進担当  
執行部長 長岡 修二

### カンボジア研修旅行募集及び説明会のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より本校の教育にご理解とご協力を賜り厚く賜り御礼申し上げます。

さて、本校では国際教養・ライフスキル教育の推進を掲げ「感じ・考え・行動する力」を養い「自分を知る・この国を知る・国際的多様性に触れる」ことで国際時代に生きる力を育むために、姉妹校提携・講話・ボランティア・修学旅行・海外留学・留学生の受け入れ、等によって養う環境を整えることに努めています。その一つとしてカンボジアとの交流も5年目を迎えます。昨年度、国会議員であるシンナム議員が来校され、本校生徒の質問をきっかけに「シンナム基金」が設立され、カンボジアでの研修の機会を頂き、1月下旬に国際・特進類型5名の生徒が研修に参加してまいりました。（「浦学ホームページ」にて、研修の活動報告を配信しています。）この研修に参加した生徒5名は、英語力を生かすだけでなく様々な体験の中で自己のライフスキルを高めることができ、その経験を生かし学校生活をより充実あるものとするために積極的に過ごしています。また、研修参加生徒の前向きに研修を受ける姿勢によって今年度も引き続き、本校生徒のカンボジア研修旅行の機会を頂けることとなりました。

つきましては、下記の要領で全学年全類型の生徒へ研修旅行の参加募集を致します。英語力に自信がなくても本校の推進する『自分を磨く』ための国際教養・ライフスキルをより養いたい生徒の参加を募ります。ご家庭におきましてもこの取り組みに対して共有して頂き、お子様が少しでも関心を持っている場合、説明会への参加のご助言を頂ければと思っております。また、説明会参加希望の場合、別紙『説明会参加申込書』を10月7日（水）までにクラス担任にご提出ください。

敬具

### 記

- 1、目的 カンボジアにて自ら「感じ・考え・行動する」中で、国際交流における国際教養・ライフスキル教育力を養成する
- 2、研修場所 カンボジア・シェムリアップ
- 3、日程 平成28年1月 中旬～下旬
- 4、費用 招待のため、成田空港までの交通費やお小遣い程度の負担となります。
- 5、研修参加人数 合計10名（尚、3名はスピーチコンテスト上位者と致します。）
- 6、研修参加条件 何事にも学習意欲が高く、「国際教養・ライフスキル教育」力をより養いたいもの
- 7、説明会・事前スケジュール  
10月13日（火）12：50～ 会議室（第1校舎 2階）  
10月22日（木）12：50～ 会議室（第1校舎 2階）  
10月26日（月）申込書締切 ※人数が多数の場合、選考をさせていただきます。  
10月30日（金）研修旅行参加者決定  
11月21日（土）研修旅行参加者（生徒）・保護者対象説明会  
1月 事前指導

## 【昨年度カンボジア研修旅行行程】

期間：平成 27 年 1 月 13 日（火）～18 日（日）5 泊 6 日

**第 1 日目** 成田空港出発 ⇒ ハノイ空港（ベトナム）経由シェムリアップ空港到着（カンボジア）

**第 2 日目** 小中学校訪問・山本日本語教育センター視察、他

**第 3 日目** クロライン高校訪問、孤児院訪問、他

**第 4 日目** アンコールトム・タプローム寺院、アンコールワット見学、他

**第 5 日目** キリングフィールド・トレンサップ湖見学、買い物（お土産、等）  
シェムリアップ空港（カンボジア）出発 ⇒ 経由地ホーチミン空港へ（ベトナム）

**第 6 日目** ホーチミン空港出発（ベトナム）成田空港へ

※今年度の行程ではありません。先方との打ち合わせにて参加者におきましては後日連絡を致します。

## 【カンボジアについて】

### 1. 基本情報

正式名称	カンボジア王国
漢字表記	柬埔寨
国王	ノロドム=シモハニ
首相	フン=セン
首都	プノンペン
気候	熱帯モンスーン気候
主な河川	メコン川
主な産業	農業（就業者の 7～8 割が農民）
主な宗教	仏教（宗派は上座部仏教）
公用語	クメール語
主な民族	クメール人（国民全体の約 9 割を占める）



カンボジアの国旗中央に描かれているのは  
アンコール=ワット

### 2. 日本とカンボジアの関係

面積	約 18 万 km <sup>2</sup> （日本の半分程度）	GDP (MER)	約 120 億 US ドル（日本は約 6 兆 US ドルなので、日本の 500 分の 1 程度）
人口	約 1500 万人（日本の 1 割強）		

※日本からカンボジアへの航空機の直行便は現在のところ就航していないが、2013 年末の首脳会談で討議された。（現在の安倍政権は東南アジア外交を特に重視しており、初の外遊は東南アジア。）

※日本の ODA は問題点も指摘されるものの、日本は世界最大の ODA 拠出国であり、対象国は中国やインドネシアなどアジア地域が多い。日本はポル=ポト政権時代にカンボジアと交流がなかったこともあり、カンボジアへの日本の ODA 拠出総額は中国やインドネシアに対してよりも少額である。それでもカンボジアにとっては日本が最大の ODA 相手国である。

### 3. カンボジアの歴史

- ①1～2 世紀頃に成立した扶南（ブナム、ブノム）はカンボジア～ベトナムに栄えた。これは東南アジア最古の王国とされる。その後、カンボジアの真臘が扶南を併合して栄えたが、しばらくして分裂・弱体化した。9 世紀にアンコール朝がカンボジアを統一し、15 世紀まで続いた。このアンコール朝が真臘の最盛期であり、中心地は現在のシェムリアップ近郊であった。アンコール=トムはアンコール朝の王都遺跡として知られ、ヒンドゥー教寺院としてアンコール朝時代に建設されたアンコール=ワットは、後に仏教寺院に改修された。
- ②アンコール朝の滅亡後はタイやベトナムなど周辺国家の支配下に置かれることが多く、19 世紀中頃（日本の幕末）にフランスがベトナム・カンボジアを支配下に置くと、19 世紀末にはフランス領インドシナが成立した。
- ③第 2 次世界大戦期、フランスがナチス=ドイツに降伏したため、日本は 1940 年にフランス領インドシナの北部に進駐し、1941 年には南部に進駐した。日本軍はカンボジアにも進駐したが、この時代に 18 歳でカンボジア王位を継承したのがノロドム=シハヌークであった。1945 年、日本の敗戦により、シハヌーク国王は独立を宣言した。同じくフランス領インドシナに属していたベトナムとラオスも独立した。
- ④これに対し、旧宗主国であるフランス（強権的・反米的指導者ド=ゴールは首相辞任していた時期）は特にベトナムの独立に警戒をいだき、1946 年から（第 1 次）インドシナ戦争を起こした。これはベトナム独立運動の指導者がソ連に近い共産主義者のホー=チ=ミンであったことと関係がある。
- ⑤インドシナ戦争中の 1949 年にカンボジアはフランスから条件付きで独立を認められたが、完全独立を目指してシハヌーク国王は強硬に反発し、1953 年に完全独立が認められた。すると、シハヌークは王位を父に譲り、自らは首相に就任した。これ以降シハヌークは殿下と呼ばれ、1960 年に父王が死去しても王位には就かず、国家元首の職を創設してこれに就任した。この時代には仏教を保護し、社会主義的な政策がとられた。
- ⑥隣国のベトナムで第 2 次インドシナ戦争とも言えるベトナム戦争が起こっている中で、カンボジアは外交的には中立を守ったが、国内には親米的な勢力や親ソ的な勢力も台頭した。1970 年、親米的なロン=ノル將軍らのクーデタによってシハヌークは追放され、米軍の空爆がベトナムだけでなくカンボジア全土に及ぶなど、ベトナム戦争の戦火はカンボジアにも拡大した。これによってカンボジアの農業が壊滅し、反米的な共産武装組織のクメール=ルージュ（赤色クメール）が台頭するようになった。
- ⑦追放されたシハヌークは中華人民共和国（中国）に保護を求めた。当時の中国は共産主義者の毛沢東が指導者であったが、同じ共産国のソ連との関係に溝が深まっていた。そのため、中国は米ソのどちらとも距離を置き、シハヌークと中国寄りのポル=ポト（クメール=ルージュ指導者）を支援した。1975 年にはポル=ポト派がシハヌークを国家元首として、共産主義国家の民主カンプチアが成立した。国民の人気の高いシハヌークと結んでいたことから、ポル=ポト派（クメール=ルージュ）にカンボジアの一般農民が多数加入することになった。しかし、ポル=ポト派は 1976 年にシハヌークを幽閉して実権を奪い、以後はポル=ポト派による大粛清が行われた。特に医師・教師・技術者などの知識人層が大量虐殺され、教育をあまり受けていない若年層が重用された。反対派だけでなく、外国人の住民も多数虐殺された。この時代に医療・農業・教育・宗教など多方面での混乱が続き、ポル=ポトが「完全な兵士」と呼んだ地雷が多数埋められた。（ポル=ポトは「腐ったリンゴは箱ごと捨てなくてはならない」と言ったとされる。）
- ⑧一方、ベトナム戦争でソ連の支援を受けて米軍を撤退させたベトナムは、カンボジアの反ポル=ポト勢力を支援し、1979 年にはカンボジアに侵攻した。そしてポル=ポト政権は倒れ、親ベトナムのヘン=サムリン政権がカ

ンボジア人民共和国を成立させた。ポル=ポトを支援していた中国はベトナムに侵攻し、中越戦争を起こしたが、撃退された。こうしてカンボジアはベトナムの強い影響下に入り、さらにはソ連陣営に組み込まれた。

⑨これに対し、中国とアメリカが結託して、カンボジア人民共和国はベトナムの傀儡政権であるとし、カンボジアの国連総会への出席を拒否した。カンボジアではベトナム勢力の排除を目指し、1981年にポル=ポト・シハヌーク・ソン=サンの三派による反ベトナム連合が成立し、1989年にはベトナム軍を撤退させた。

⑩1989年のマルタ会談で米ソ冷戦が終結し、1991年にはソ連が解体したことで、それまで大国や周辺国に振り回されていたカンボジアはようやく国際社会に復帰するきっかけができた。1992年に国連カンボジア暫定統治機構（UNTAC）による平和維持活動（PKO）が始まり、1993年には国連の監視下で選挙が行われた。当時の UNTAC の事務総長は日本人の明石康であった。選挙に際してポル=ポトは参加せずに抵抗を続け、1998年に病死するまで軍事指導者であった。なお、日本の自衛隊も1992年に二度目の海外派遣（陸上部隊の派遣としては、戦後初）としてカンボジアに派遣されたが、これ以降、自衛隊員の武器の携行と使用についての問題が議論されるようになった。

⑪カンボジア新政権は立憲王政となり、シハヌークが国王に即位した。シハヌークの次男のラナリット王子が率いるフンシンペック党が選挙で第1党となったが、第2党はマルクス=レーニン主義を廃止したカンボジア人民党であった。カンボジア人民党は次第に勢力を伸ばし、現在の首相フン=センも同党の政治家である。彼は親ベトナムのヘン=サムリン政権時代に外相や首相を務めていた人物である。一方、シハヌークは2004年に退位し、ラナリット王子の弟シモハニに王位を譲り、2013年に病死した。

#### 4. これからのカンボジアと日本

1999年にカンボジアは10番目の東南アジア諸国連合（ASEAN）の加盟国となり、経済成長も著しいが、経済とそれを支える教育が依然として正常とは言える状況ではない。また UNTAC の PKO により地雷撤去が始まってから約20年が経過するが、今でも地雷の不安は住民の生活に深刻な影を落としている。そのため、地雷撤去・被害者支援・教育支援・学校建設などで日本の貢献が今後も期待される。

2015年には ASEAN 共同体が創設される予定になっており、カンボジアも参加予定である。ASEAN10 各国で合計6億の人口があり（EUは27各国で5億人）、成立すれば、中国・インドに次ぐ大規模な経済圏になる。経済的にも日本が東南アジアとの関係を深めていく路線は今後も変わらないだろう。今後のカンボジアと日本の関係は、さまざまな支援によって繋がるだけでなく、経済・政治・文化などさまざまな分野での重要なパートナーにもなっていくのかもしれない。



カンボジアは東南アジアのインドシナ半島に位置し、タイ・ラオス・ベトナムと国境を接する。トンレサップ湖は東南アジア最大の湖。

【参考】『僕たちは世界を変えることができない。』

ULT には原作本も DVD もあります。

原作本 葉田甲太（2008年） ※自費出版

映画（DVD） 主演；向井理、監督；深作健太（2011年）

# カンボジア研修旅行説明会参加申込書

説明会参加希望日に○をつけて下さい。

(     ) 10月13日(火)

(     ) 10月22日(木)

年    組 (     ) 氏名 \_\_\_\_\_

保護者氏名 \_\_\_\_\_

※10月7日(水)までに、クラス担任に提出して下さい。